

中期取組目標実現に向けた「三つのプラン」

学校教育目標

【学校教育目標】共に創り 共に歩み 共に輝く  
 ○基礎・基本を大切に、自ら課題を解決しながら、共に学び合う力を育てます。【知】  
 ○他者との豊かな関わり合いの中で、互いのよさや違いを認め合い、共に高め合える姿勢を育てます。【徳】  
 ○健康や安全の大切さに気づき、自分や他者の生命を尊ぶことのできる、心も体も健やかな子どもを育てます。【体】  
 ○地域の人々や自然とのかかわりを通して生き方を学び、自らできることを考えて実践できる力を育てます。【公】  
 ○私たちの「まち」綱島を愛し、綱島の自然や文化の素晴らしさを受け継ごうとする態度を育てます。【開】

教育課程全体で  
育成を目指す資質・能力

＜問題発見・解決能力＞  
 ＜持続可能な社会の創造に貢献する力＞

具体化した資質・能力

問題を発見する力 解決策を実行する力 結果から学ぶ意識 試行錯誤する力  
 身近な事象に積極的に関わる態度 他者を理解する態度 自己を理解する姿勢  
 思いや考えを表現する力 目的に合った情報を選択する力

中期取組目標

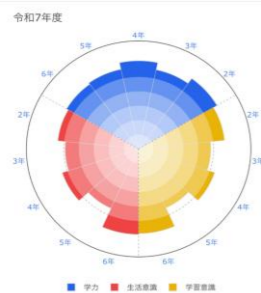
○子ども一人ひとりの思いや考えを大切にしながら、子どもが仲間と協働しながら学びを深める授業づくりを行うとともに、個に応じた指導を充実し、主体的に学習に取り組む態度を育成します。  
 ・1年目は、思いや考えを伝え合い課題を見つけたり新たな視点について気付いたりする力を育てます。  
 ・2年目は、互いの考えの違いやよさを理解し、よりよい解決策について話し合う力を育てます。  
 ・3年目は、多様な考えを生かし、課題解決に向かって協働して取り組む力を育てます。  
 ○綱島のまちの「人」「もの」「場所」を生かし、豊かな体験を通して、まちを愛する心を育てます。  
 ・3年間を通して、子どものまちへの思いを引き出し、豊かな体験から自己有用感をもてるようにします。

学力向上アクションプラン

| 重点取組分野 | 具体的取組  |
|--------|--|
| 確かな学力  | ①単元や一単位時間で育成を目指す資質能力を明確にした授業づくりをする。単元や本時のめあて、学習計画を確認し、子どもが自分の学びを選択しながら学習を進められるようにする。②協働的に課題を解決する過程において、主体的に取り組める身近な材を活用し、課題意識をもてるようにする。友達の意見を取り入れながら、絶えず問題解決に向かい、自分の考えを見つめ直し深めることができる子どもを育成する。 |
| 担当     | 評価・カリマネ委員会   |

学力向上に関わる本校の状況

(1)児童の実態  
 横浜市学力・学習状況調査の結果を見ると、学力では全学年市の平均を上回っている。「自分の考えていたことよりも、相手の考えのほうがよい思った時には、進んで自分の考えを変える方だと思うか。」という設問に対しては、まだ市の平均を下回った学年もあるが、肯定的な回答をした児童が多くなってきた。「学校での学習に進んで取り組んでいますか。」という設問に対しては、市の平均に比べて低い回答が多かった。  
 (2)昨年度の取組  
 昨年度は綱島の「人」「もの」「場所」の材を生かした体験的な活動を展開してきた。自分の考えや思いを伝え合い、主体的に取り組む、共に認め合う子どもの育成に注力してきた。



今年度の目標

思いや考えを伝え合い、互いの考えの違いやよさを理解し、よりよい解決策を見出していこうとする姿を目指して

目標を実現するための具体的行動プラン

|     |  |
|-----|--|
| 上半期 | ①各教科で、自分の考えを伝えたり友達の考えを聞いたりして考えを深める活動を取り入れる。めあての設定や振り返りを工夫し、目的に応じて集めた情報を整理したり選択したりして分析する学習過程や対話、交流活動を通して、他者に分かりやすく伝える力を育成する。<br>②協働的に問題を見出し実行する力を育成するために、身近な材を活用し学年研や重点研究の授業研究を通して、単元づくりや授業づくりをする。<br>③積極的な授業交換や授業参観を行い、児童理解やアセスメントの共有を進めるとともに、授業改善を行う。 |
| 下半期 | ①上半期の単元や授業の振り返り、児童の変容をもとに各学年や教科で教材研究や学習展開の工夫をし、実践する。<br>②生活や総合的な学習の時間を中心に、身近な材と繰り返し関わり、問題を発見すること、自分の思いや考えを伝えたり、相手の思いや考えを受け止めて聞いたりして、試行錯誤し、問題を解決する道筋が経験できるようにする。  |

豊かな心の育成推進プラン

| 重点取組分野 | 具体的取組  |
|--------|--|
| 豊かな心   | ①年間を通してペア学年の取組を充実できるようにし、自他を大切に思いやるの心情を育て、互いに思いやるの心情を育てる。②年間計画を基に、児童主体の生活・総合的な学習の時間を推進し、自己有用感を高めるとともに、互いのよさや違いを認め合い、共に高め合える姿勢を育てる。③道徳科、人権週間での取組を充実させ、自己を見つめ、誰もが安心して豊かに生活できる環境づくりに努める。④情報モラル教育を行い、自他の権利を尊重し、行動に責任を持ち、情報を正しく安全に利用できるようにする。 |
| 担当     | 人権・児童指導委員会   |

豊かな心に関わる本校の状況

(1)児童の実態  
 全体的に素直な児童が多く、一生懸命学習活動に取り組もうとする姿が見られる。自分から積極的に人との関わりをもつことのできる児童が多く、ペア学年を中心とした異学年交流では、相手のことを思いやりながら仲よく楽しく活動することができる。  
 横浜市学力学習状況調査の生活意識・自己意識調査では、「人のためになることをしたいと思いますか」の設問に、「そう思う」、「どちらかといえば、そう思う」と回答した児童がほとんどの学年で市の平均を上回っており、人とよく関わりたいという意識の高まりが感じられる。  
 一方、「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」の設問に、「どちらかといえば、そう思わない」、「そう思わない」と回答した児童の割合が市平均を上回っている学年が見られる。学校生活では、友達との関わりの中で、自分本位の言動をとってしまう姿が見られる。問題に直面した際に、SOSを出したり、解決方法を考え、解決に向けて前向きな行動をしたりする力を付ける必要があると考えられる。  
 (2)昨年度の取組  
 生活科、「総合的な学習の時間」に重点を置き、児童が主体的に取り組める学習活動を行った。児童一人ひとりが自分で決めた課題に向かって活動することを積み重ね、自分や友達の頑張りがよさに気付いたり、友達と協力して活動を成し遂げる楽しさを感じたりすることができた。  
 年間計画を基に、意図的、計画的にペア交流を行い、相手を思いやりながら仲良く活動することができた。

今年度の目標

互いのよさや違いを認め合うことで、自他を思いやり、大切にできる姿を目指して

目標を実現するための具体的行動プラン

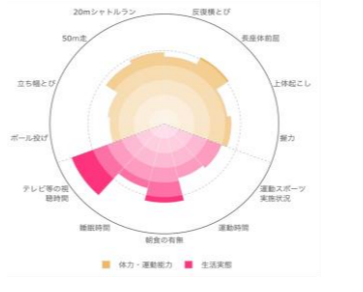
|     |  |
|-----|--|
| 上半期 | (1)学年や学級の実行委員や係・当番活動、委員会活動などで、児童が自分の役割やその役割の大切さを自覚し、主体的に取り組むことができるように、活動計画を立て、見通せるようにする。<br>(2)児童が安心して自己表現したり、互いに認め合ったりできる学級風土づくりをするために、YPAアセスメントのデータを分析、活用しながら、児童一人ひとりの理解や、学級の実態把握に努め、適宜プログラムや授業改善を行う。<br>(3)発達段階に応じて「いのちの安全教育」を行う。<br>①自他の権利を尊重し、自分の行動に責任を持ち、情報を正しく安全に利用できるように、発達段階に応じて、情報モラル教育を行う。<br>②児童一人ひとりが社会スキルを身に付け、友達と適切な関わりをもてるように、横浜プログラムを活用し、SOSの出し方教育を行う。<br>③自分や人の身体や気持ちを理解することができるように、プライベートゾーンやパーソナルスペースなどについての教育を行う。 |
| 下半期 | (1)児童が相手意識をもって活動し、相手の立場に立って考えたり行動したりすることができるように、ペア交流活動や児童会活動を充実させる。日々の活動の中で児童が成功体験を積み重ねられるように、活動の見直しをもたせたり、よさを価値づけたりする。<br>(2)「横浜子ども会議」に向けての取り組みをまとめ、「いじめをしない、させない、見逃さない」学校風土をつくれるような活動を行う。<br>(3)互いの違いやよさを認め合い、自他を大切にできるように、日々の道徳教育や人権週間などをきっかけに、全校児童でいじめや福祉について考えられるようにする。   |

健やかな体の育成プラン

| 重点取組分野 | 具体的取組   |
|--------|---|
| 健やかな体  | ①体育、保健の授業において体力・運動能力調査結果の分析に基づいて、個に応じた指導を行い基礎的な技能の定着を図るとともに、授業の手立てや場の設定を工夫するなど、運動することの楽しさを味わえるようにする。②学校保健委員会の中で、子ども自身が考える課題について全校で取り組み、自身の生活習慣を見直すことができるようにする。③学校栄養職員と連携しながら食育を実施し、自らの健康のために必要な食事について考え、日々の生活で実践できるようにする。 |
| 担当     | 健康安全委員会   |

健やかな体に関わる本校の状況

【体育】  
 ・休み時間には、校庭で鬼ごっこやボール遊びをする児童が多く見られるが、横浜市体力・運動能力調査では、自主的に体を動かす児童が少ないように思われる。  
 ・学年によって差があるが、走る、跳ぶ、投げるなど体全体を使う種目では、横浜市の平均を下回る結果の種目もある。  
 【保健・安全】  
 ・体調不良で保健室へ入室する理由のひとつとして、休養・睡眠不足、朝食抜き等、生活習慣に原因があることが多い。児童は体調不良や病気にかからないためには、予防が大切だということも理解しているが、それらを自分ごととして考え、行動に移すことが難しい。  
 【給食】  
 ・朝食の喫食率が学年によってばらつきがあり、横浜市の平均以下の学年もある。  
 ・給食での残食量が多く、目標栄養量に対するエネルギー量の充足率が83%に留まっている。偏食や少食の児童も多い。



今年度の目標

健康安全に関する児童の自己管理能力の向上を目指して

目標を実現するための具体的行動プラン

|     |   |
|-----|---|
| 上半期 | ①指導者が体力・運動能力調査の結果をもとに、児童一人ひとりに応じた指導ができるよう、授業の提案や情報交換を進んでおこなう。<br>②児童一人ひとりが「できた」「わかった」という実感を持ちながら運動に取り組み、運動に関する知識や技能の習得につなげていく。<br>③「熱中症予防」をテーマに熱中症について理解し、予防や対策を全校に発信し実践する。④日々の給食に地場産物や旬の食材を積極的に取り入れ、児童が豊かな食経験を積めるよう取り組む。また、給食室の様子をばくばくだよりやICTを用いて発信することで、給食に関する興味・関心を高め、食をより身近に感じられるようにする。 |
| 下半期 | ①児童自身の運動習慣や技能面での実態を把握し、つなスポ委員会が中心となって進んで体を動かす取り組みを提案する。<br>②「感染症予防」をテーマに感染症について理解し、予防や対策を全校に発信し実践する。③給食週間を中心に、児童が食べ物や食事のマナー、給食についての知識を深め、健康によい食事について知るとともに、給食に関わる方々へ感謝の気持ちをもつことの大切さに気付くようにする。   |